

秋田県寒風山を經由する観光ルートの特徴

幕 沢 美 穂

キーワード：秋田県寒風山 男鹿半島 観光流動 観光ルート 観光地理学

1 はじめに

立石(1999)は、宿泊客の前泊・後泊から、秋田県大湯温泉は通過型観光地であることを明らかにした。また、木村(2003)は、秋田県乳頭温泉郷を事例として、利用交通機関によって観光客の流動が異なることを明らかにした。筆者はこれらの研究を踏まえ、秋田県沿岸部に到達する観光ルートの実態解明を試みることにし、調査地として秋田県寒風山を選定した。本研究の目的は、寒風山を經由する観光ルートの特徴を明らかにすることである。

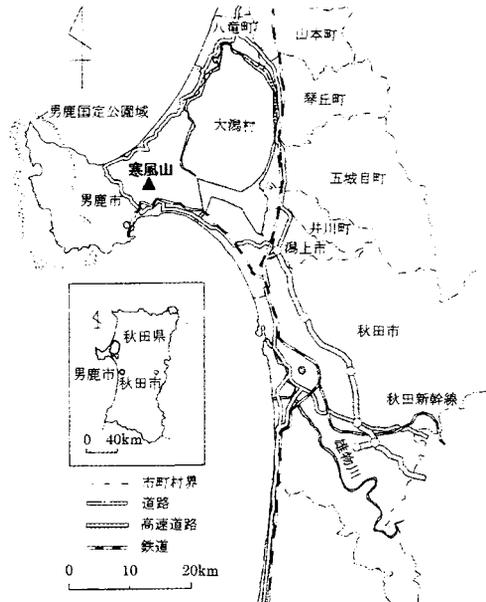
寒風山(355m)は、秋田県男鹿半島の付け根に位置する。山頂までは「寒風山パノラマライン」が整備されている。山頂には「寒風山回転展望台」が設置され、南北に日本海と鳥海山、東に大湯村干拓地、西に真山と本山、入道崎を一望できる。

II 寒風山を經由する観光客の特徴

本研究のデータはすべて、寒風山展望台下の駐車場における聞き取り調査によって収集した。調査項目は、おもに発地、旅行日程、立ち寄り地、宿泊地、交通手段、年齢である。調査期間は、2005年4月29日から5月6日までの春季と、2005年10月25日から11月5日のうち4日間の秋季である。サンプル数は春季221件、秋季45件の合計266件である。

1. 観光客の発地

発地は、北海道から愛媛県まで、ほぼ全国的に分布している。県内客は106件で最多であり、その約半数は秋田市からの行楽客である。次いで、東北地方82件、関東地方60件である。秋田市からの行楽客が多い理由として、秋田市から寒風山山頂までの所要時間が車で約45分と、比較的短時間でアクセスが可能であることが考えられる(第1図)。



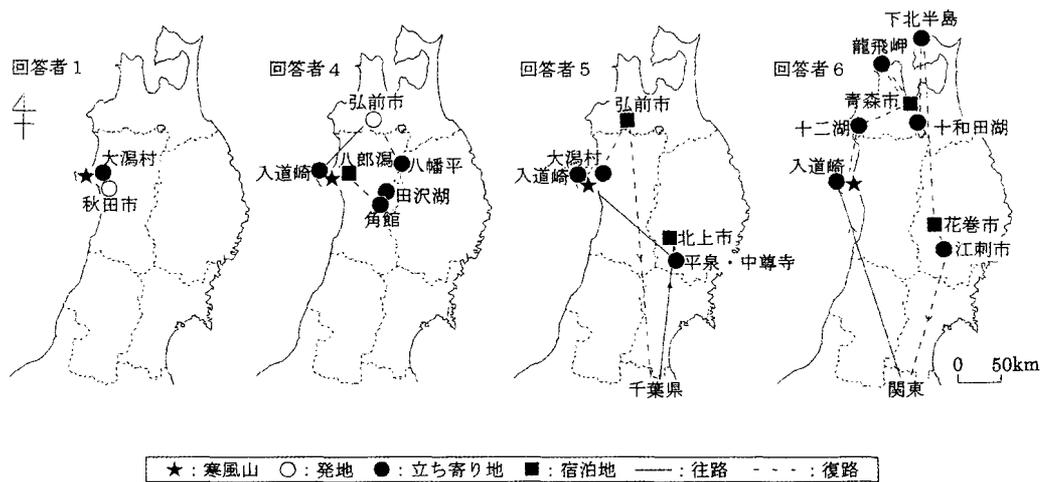
第1図 寒風山とその周辺(2005年)

(秋田県産業経済労働部観光課発行「観光地図 秋田」より作成)

第1表 寒風山を經由する観光客数(2005年)

		単位:件		
		春季	秋季	計
東北地方	秋田県	89	17	106
	青森県	12	4	16
	岩手県	17	2	19
	宮城県	16	5	21
	山形県	18	0	18
関東地方	福島県	6	2	8
	茨城県	2	1	3
	神奈川県	11	1	12
	埼玉県	16	1	17
	千葉県	6	2	8
	東京都	13	3	16
	栃木県	2	0	2
計	221	45	266	

(春季:2005年4月29日～5月6日、秋季:10月25日～11月5日の聞き取り調査により作成)



第2図 観光ルート・事例（2005年）

注) 回答者1および5は春季、回答者4および6は秋季における観光ルート

(春季：2005年4月29日～5月6日、秋季：10月25日～11月5日の聞き取り調査により作成)

春季は、秋田県内を発地とする89件が最多であり、次いで、山形県18件、岩手県17件、宮城県と埼玉県がそれぞれ16件である（第1表）。秋季においても県内客が17件と最多である。春季と異なる点は、県内客の割合が低いことである。

2. 観光客の季節性

春季における県内客の旅行目的は多様である。ドライブ、ピクニックのほか、「寒風山」、「入道崎」、「八望台」などの景勝地への観光、「男鹿水族館」、「なまはげ館」などの観光施設への訪問もみられた。それに対して、県外客は、桜の名所として知られる角館－弘前間を移動する途上に寒風山に立ち寄っている。東北地方の桜の開花時期とゴールデンウィークが重なったことが要因として考えられる。

秋季における県内客の旅行目的は、春季と同様に、ドライブという回答が目立つ。一方で、県外客は、十和田湖、八幡平、田沢湖など紅葉の名所として知られる観光地の周遊過程で、寒風山に立ち寄る傾向がある。

Ⅲ 寒風山を経由する観光ルートの特徴

第2図に、寒風山を経由する観光ルートを示した。寒風山を訪れる観光客は、発地によって観光ルートが異なる。

1. 秋田県内

秋田県内からの観光客は、寒風山からの眺望や男鹿半島の周遊を主目的としているため、発地と男鹿半島の往復ルートが多い。春季と秋季による季節性はみられない。たとえば「回答者1」は、秋田市を出発し、ドライブの途中で寒風山に立ち寄った後、大瀧村菜の花ロードを通して帰着する。

2. 東北地方

東北地方からの観光客は、発地と男鹿半島の往復ルートをとることが多い。一部には、発地－男鹿半島間に点在する観光地に立ち寄る事例もみられる。

春季における事例として、「回答者2」は盛岡市を発地とする日帰り客である。盛岡市－寒風山間に位置する角館で桜見物をした後、男鹿水族館を経て、寒風山に至っている。「回答者3」は、八戸市を発地とする宿泊客である。仕事の都合で盛岡市、沢内村へ立ち寄り、寒風山に至る。男鹿市内で宿泊し、翌日に帰着する。

秋季における事例として「回答者4」は、弘前市を発地としている。入道崎と寒風山を経由し、角館、田沢湖、八幡平等紅葉の名所として知られる観光地を周遊する。

3. 関東地方

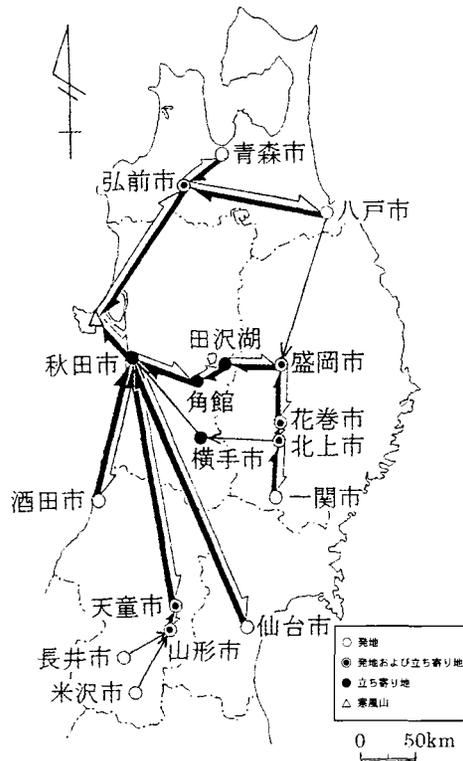
それらに対して、関東地方からの観光客は、北東北の観光地を周遊する過程で、男鹿半島に立ち寄っている。

春季の観光ルートは、関東地方から北上し、角館ー弘前間を移動する途上に男鹿半島に立ち寄るパターンが多い。たとえば「回答者5」は、千葉県柏市を発地としている。自動二輪車による単独の旅行で、東北自動車道を利用し、北上インターチェンジ付近で前泊した。当日は平泉・中尊寺を見物して、寒風山に至る。その後、入道崎と大湯村菜の花ロードを経由し、さらに北上する。当日は、弘前市内のホテルで1泊し、翌日は弘前城の桜見物をする予定である。

秋季は、男鹿半島と紅葉の名所として知られる十和田湖、八幡平、田沢湖を経由する観光ルートが多い。「回答者6」は、関東地方を発地とする観光ツアーの添乗員である。羽田空港付近のホテルで前泊し、午前中に秋田空港に到着している。貸切バスに乗り換え、入道崎と寒風山へ至る。その後、十二湖で観光し、青森市内のホテルで後泊する。翌日は、龍飛岬、十和田湖、下北半島を周遊する。この観光ツアーは「岬めぐり」を主目的としている。また、「回答者7」も観光ツアーの添乗員である。この観光ツアーは、男鹿半島を周遊し、大湯温泉で後泊する。翌日は、十和田湖、奥入瀬渓流を訪問し、花巻温泉で宿泊する。最終日に江刺藤原の郷を経て、帰着する。「男鹿半島と十和田湖遊覧・八幡平と大河ドラマ〈義経〉をめぐる4日間」と題されていた。

4. 考察

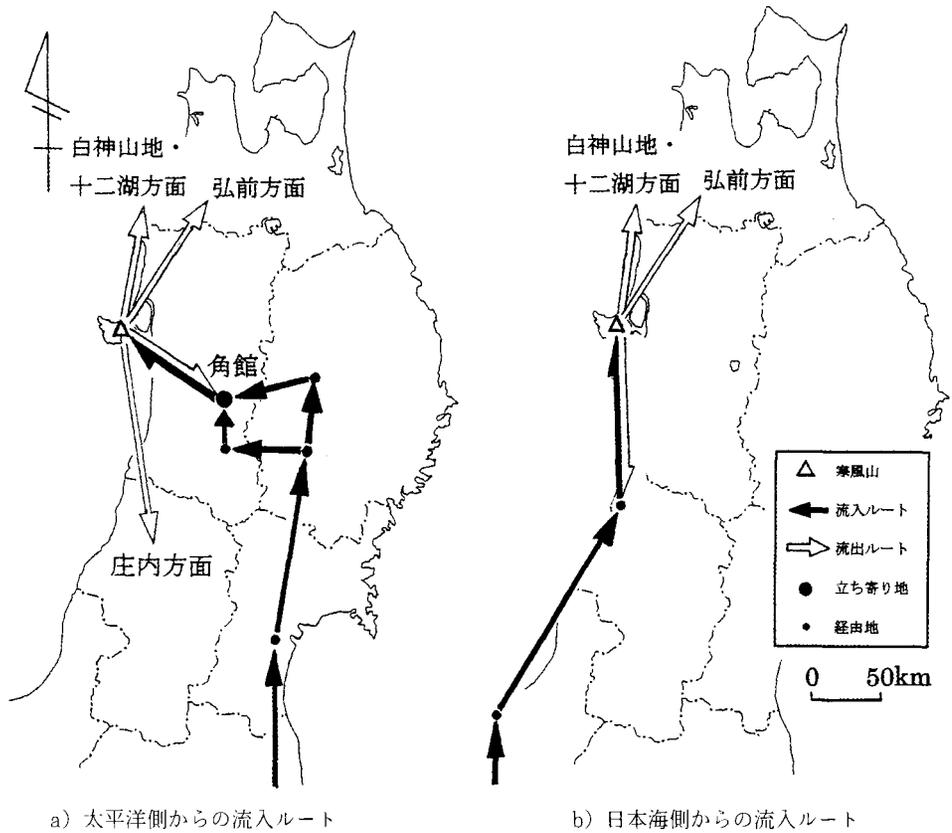
第3図、第4図に、春季における観光ルートを示した。第3図より、次の3点が読み取れる。1つ目として、青森市、弘前市、盛岡市、酒田市、天童市、山形市など主要国道沿いの地域を発地とする観光客は、発地ー男鹿半島の往復ルートをとる。なかには、移動する過程で、道の駅や角館などに立ち寄る事例もみられる。2つ目として、花巻市、北上市、一関市、仙台市など東北自動車道・秋田自動車道にアクセスしやすい地域では、前後の立ち寄り地が少なく、発地と男鹿半島の往復ルートであることが多い。最後に福島県からの観光ルートは、東北地方の他県の観光ルートとは異なり、関東地方からの観光客と同様の観光ルートをとる傾向がある。「回答者8」は、



第3図 東北地方からの観光ルート〔模式図〕(2005年)
(2005年4月29日～5月6日の聞き取り調査より作成)

いわき市を発地とする宿泊客である。岩手県西根いこい村で1泊し、弘前城で桜見物をした後、秋田県内に入った。男鹿温泉への宿泊を希望していたが、予約できなかったため、秋田市内のホテルに前泊し、男鹿半島に至った。その後、山形県羽黒休暇村で後泊し、翌日は置賜地方の桜回廊、角館、北上で桜見物をした後、帰着する。

第4図a)、b)に、関東地方からの観光ルートを示した。太平洋側からの流入ルート(第5図a))と日本海側からの流入ルート(第5図b))の2パターンが考えられる。前者は横手市や盛岡市を通過し、角館で観光後、寒風山に至る。後者は新潟市や酒田市を経由し、寒風山に至る。その後は前者と同様に、弘前方面や白神山地、十二湖方面へ流出する。関東地方からの観光客は、2泊以上の宿泊客が多く、北東北の観光地を周遊する途上に寒風山を経由する観光ルートが特徴的である。



第4図 関東地方からの観光ルート〔模式図〕(2005年)

(2005年4月29日～5月6日の聞き取り調査より作成)

IV おわりに

本研究では、秋田県寒風山を経由する観光ルートの特色を考察してきた。

寒風山を経由する観光客は、秋季よりも春季が多い。秋田県内からの観光客が多く、とくに秋田市からの日帰り客は突出している。

秋田県内と東北地方からの観光ルートは、発地と寒風山の往復ルートが多い。関東地方からの観光ルートは、季節性があり、周遊過程で寒風山を経由する特色がある。春季においては、男鹿半島と桜の名所として知られる弘前城、角館をはじめ盛岡、平泉・中尊寺などの観光地を周遊する。秋季においては、男鹿半島と十和田湖、八幡平、田沢湖など紅葉の名所として知られる観光地を周遊する。

本稿の作成にあたり、秋田大学教育文化学部の松村公明先生には終始貴重なご助言、ご指導をいただいた。聞き取り調査の際には、調査に応じていただいた全国の皆様、寒風山回覧展望台物産店販売員の皆さまに温かいご協力を得ることができた。以上、末筆ながらここに感謝の意を表します。

文 献

- 木村妙子 (2003) : 秋田県乳頭温泉郷を中心とする観光客の流動. 秋大地理, 第50号, 17-20.
 立石圭子 (1999) : 観光客の流動からみた秋田県大湯温泉の地域的特色. 秋大地理, 第46号, 21-26.